

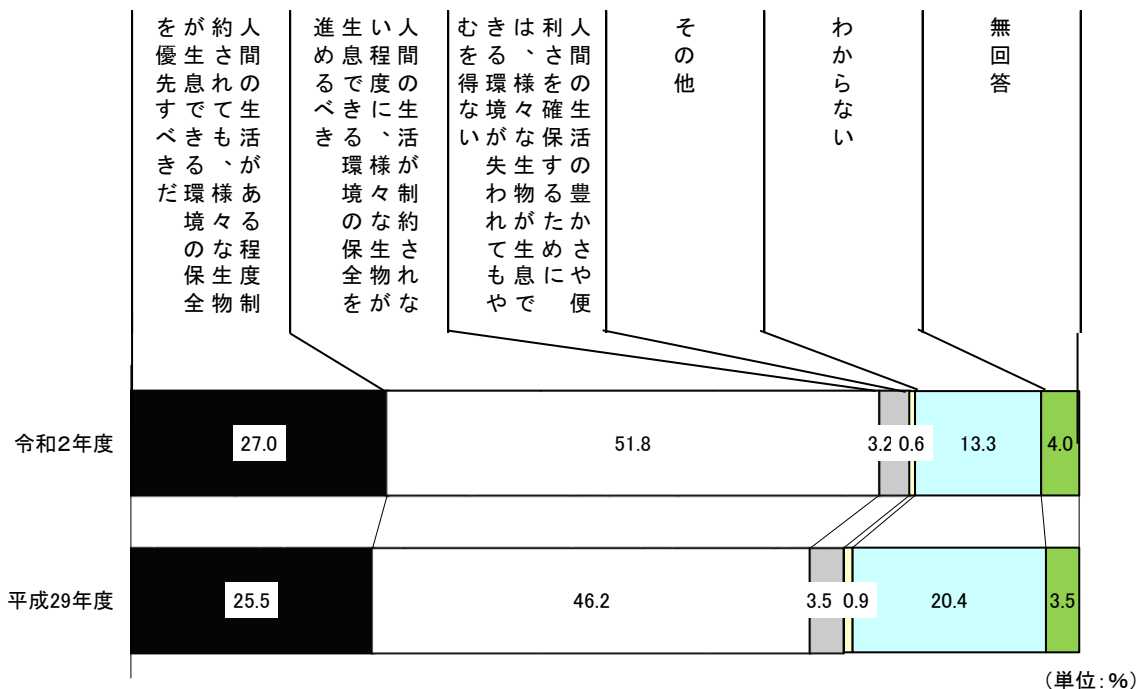
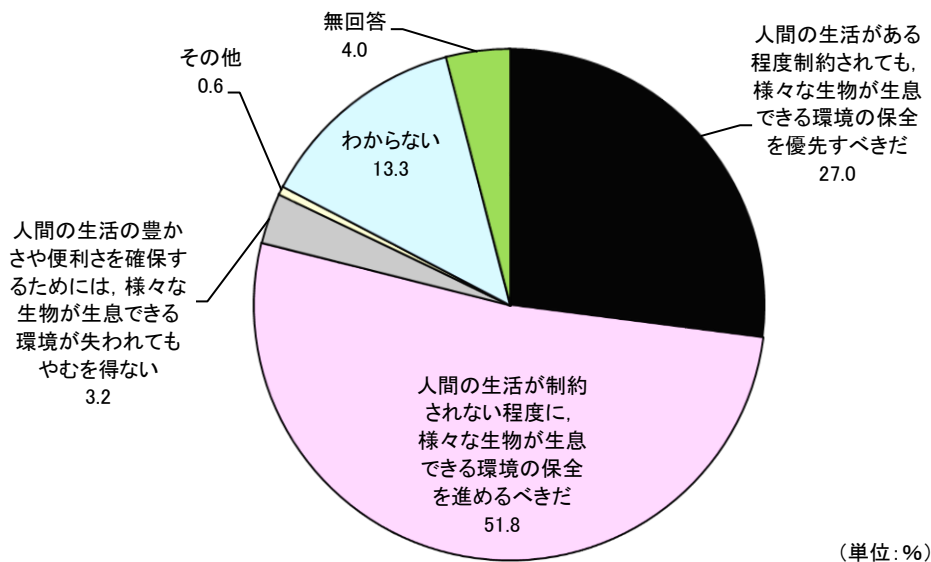
12. 生物多様性に関する理解度

(1) 生物多様性の保全のための取組について

問31 生物多様性の保全のため、様々な生物やそれらが生息できる環境を守る取組が進められていますが、あなたは、このことについてどのように考えていますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

「人間の生活が制約されない程度に環境の保全を進めるべき」が5割強

生物多様性の保全のための取組について、「人間の生活が制約されない程度に、様々な生物が生息できる環境の保全を進めるべきだ」と回答した割合が51.8%と5割強を占め最も高く、次いで「人間の生活がある程度制約されても、様々な生物が生息できる環境の保全を優先すべきだ」(27.0%)となっている。



＜属性による比較＞

【生活圏別】

広島地方生活圏は「人間の生活がある程度制約されても、様々な生物が生息できる環境の保全を優先すべきだ」(28.5%)が他の生活圏と比べて最も高い。

【性別】

男女間に明確な差は見られない。

【年代別】

18・19歳で「人間の生活がある程度制約されても、様々な生物が生息できる環境の保全を優先すべきだ」は42.4%と4割を占め、他の年代と比べて最も高い。40歳代が37.7%でこれに続く。30歳代と60歳代以上は「人間の生活が制約されない程度に、様々な生物が生息できる環境の保全を進めるべきだ」が半数以上を占め高くなっている。

生物多様性の保全のための取組について(生活圏, 性, 年代別)

